

項目	意見	対応
<p>全体</p>	<p>本検討会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮等ひきこもりに関連する課題が増えており、今回の検討会でどこまで協議するのか揺るがないことが大事 	<p>・今回は「ひきこもり支援」に特化</p>
	<p>「人と関わらない生き方」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい傾向で、人とのかかわりを苦手とし、それゆえに不登校やひきこもっている方が大勢います。その方へのメッセージとして、自律した生活ができればどんな生き方であってもいいんだというメッセージを届けた方が良くはないでしょうか。この場合、支援は自律した生活をできるようにすることで、人と関わらないでも生活ができる方法を考えるべきだと思います。人と関わることは楽しいことではありますが、それは大多数派の方の考え方だと思います。本当に苦痛で不安で疲れることで、できたら避けたいと思っている発達障がい傾向の方に、人と関わることに慣れ、人と関わって楽しんでほしいと思ってしまうことはそれは大多数派の勝手な意見だと思うのです。 ・「人と関わらない生き方」と言ってしまうといいのか。「ひきこもりを認める」にしたらどうか。 ・「人と関わらない生き方があっても良い」と打ち出すのではなく、「その人らしい生き方を支える」という程度でいいと思います。また、ゴールを人と関わる社会参加にしないでいいと思います。よくゴールを設定しないことも大事だと言われます。 ・ひきこもり支援の目的は孤立を解消することではないか。 ・人とのつながりの再生を支援に入れることも必要では。 ・ひきこもったままで生きていく仕組みを作っていくことを考えた方がよい ・ひきこもりの人の生き方と尊厳が尊重されるべき 	<p>・御指摘の部分を削除し、P7 課題、P11「基本的な考え方」等において記載を「その人らしい生き方を支える」等の表現に修正。</p>
	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり自体は必ずしも問題行動や疾患を意味するわけではない。しかし、長期間によるひきこもりの状態によって心身に悪影響を及ぼす恐れや、社会的孤立、経済的な困窮などにつながる可能性があることに留意が必要(東京都の定義) ・目標として、「共生社会を目指します」という広い言い方でいいのか。 ・基本的な方向性3として、「伴走型の支援」等継続的な支援を具体的に記載したらどうか。 	<p>・目標とその下に基本的な考え方2つというレベル的な構造を整理。考え方2に伴走的支援について記載。</p>
<p>1 県民への啓発・情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者等のメッセージがしっかり届く研修・講演会が必要 ・研修会、講演会などは、ターゲットを決めたものでなく地域イベント的な仕組みで周知啓発ができるといい ・幅広い生活スタイルの方々、今まで支援にかかわらなかった方にも幅広くかかわってもらえるようなメッセージを伝える言葉を入れたらどうか。 ・「草の根的なつながり」と「ホームページ等を利用する情報発信」を活用した幅広い周知の2つの視点が必要 ・「正しい」「偏見」という言葉は使用せず、「広い理解」等に言い換えるほうがよい。 ・発信する側、の行政機関が意識を変え、縦割りを排除することが必要 ・生きづらい社会、競争社会や一回失敗すると立ち上がれない社会の改善が必要 	<p>・「正しい」を削除し、「県民が理解を深め」との表現に修正。</p> <p>・取組の中に委員意見をできる限り記載。</p> <p>・項目の順番を支援の段階に沿って、並べ直し。</p>
<p>2 相談しやすい窓口の設置と明確化の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な相談窓口がよいと思う人もいるが、逆に身近でないほうが良い人もいる。広域で受け止められるような形にできないか。 ・どの地域に行っても、選べるような相談窓口が明確化されているといった記載にしたらどうか。 ・ひきこもりの人の抱える個別の悩みを相談できる窓口が準備されているといい。ひきこもりの相談という表現より、抱える課題に対応した具体的な窓口としてが紹介されていると相談しやすい。 ・「ひきこもり」という言葉の扱いをどうするか、内部で議論を。 ・どこの市町村にも相談窓口がある長野県を目指す姿にしたらどうか。 ・「相談しやすい窓口」「相談できる場所」をたくさん紹介できるといい。 ・アウトリーチ型の相談 等専門用語やわかりにくい用語に注釈を入れるべき。 ・相談の手法として、対面以外のアウトリーチ、電話、ライン等もあるという点と、ひきこもり専門の相談機関でない多様な機関がひきこもり相談を受ける という視点を分けたほうがいいのでは。 ・目指す具体的な取組の柱として、啓発と相談支援が大きな柱。連携や人材育成もすべて相談支援の一環。居場所推進は啓発に分類できるのでは。 ・具体的な取組の1番、2番が大きな柱として、その下に3番から7番があるという構成にすべきでは。 ・相談窓口はすべての市町村に設置されていることは大切。ホームページに相談窓口や居場所を掲載する取組も重要。 ・窓口はいかに相談しやすいかが大切。SNS等の活用などによりハードルを下げる。 ・相談窓口は、いったい何をするといいところなのか、何のためにどんな支援をしていくのかの部分発信することが大切。誰に対して、誰が望んでいるものなのかを考えないと相談を遠ざける。 ・相談の窓口は、どんな人にもわかりやすいよう周知していくことが重要。 ・目指す姿の「身近な地域」という言葉は「どこにでもある」「各地域にある」としたらどうか。 	<p>・分かりにくい表現には注釈を記載。</p> <p>・目指す姿について「県内どの地域でも」という表現に修正。</p> <p>・取組の中に、広域連携や、課題に対応できる窓口、SNS等を活用した窓口等、委員の意見をできる限り記載。</p> <p>・取組の構成について、「相談支援」「普及啓発」を大きな柱とする構成に沿ったイメージ図を記載し、相関関係が分かるよう工夫。</p>

項目	意見	対応
具体的な取組 3 本人家族に継続的に寄り添える支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・「伴走コーディネーター」はどんな取組をしているか注釈を入れたほうが良い。 ・見守り支援という言葉で、家族・本人が放置されてしまう状況がある。見守り支援には、支援が必要となった時のシグナルをキャッチできる何らかの手だてが必要。 ・相談機関は第一義的な市町村では。その上で、市町村を中心に、他の支援機関としっかり連携して伴走支援が続けられるような体制整備を図る。 ・学齢期の子どもの窓口は一義的には学校となるが、最終的に切れないように市町村が後方から把握していく体制構築が求められる。ライフステージに応じた相談がどこで受けらるのか、本人、家族を主体的に支援していく資源は何なのかを検討するためには地域の支援資源の把握と分析が必要となる。 ・圏域ごとに支援にかかわる関係者の会議があると横の連携ができやすい。保健福祉事務所単位で、ひきこもり支援に関する検討会 ・目指す姿として「身近な地域」という言葉を外して、「途切れない継続支援を目指す」としたほうが良い ・「伴走的支援」の具体的な説明もあったほうが良いのではないか。 ・各地域で活用できる支援資源(内容と設置主体)を具体的に把握することが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目を「本人・家族に継続的につながる伴走的支援体制の構築」とし、その中に「継続的に寄り添える支援体制の構築(連携に向けた体制整備について記載)」「関係機関の連携促進(縦割り排除・資源の把握整備促進を記載)」とした。 ・市町村について「第一的」な窓口として統一。
4 社会とのつながりの場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中間就労的な支援の場は就労に向けたひとつ前の支援の段階として重要である。 ・居場所とつながりの場と言葉が二つ出てくるため、用語の整理を。 ・居場所の問題は啓発の問題として整理したほうが良い。ひきこもりの人を支援しようという企業や団体や個人が増えることで、支援の場も多くできてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所、中間的な就労の場も含めた「多様な社会参加の場」として記載
5 家族の交流の場づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が集まれる場(家族会)を作っていくのは非常に重要。 ・構成として、まずは家族支援を推進していったほうが良い。家族支援の中に交流の場の設置推進があるのでは。 ・やる気のある家族任せにならないよう、家族会の運営をサポートする仕組みが必要では。 ・家族会も多様な居場所のひとつではないか。 ・ひきこもりに限らない、広い意味での孤独・孤立に陥る様々な人の居場所が必要 ・家族が孤立しているケースが多い。相談の場にたどりつかない家族もいる。 ・家族支援として、相談に繋がらない家族の掘り起こしを、しっかり市町村ごとに取り組んでいくことが必要。 ・「家族の交流の場づくりの推進」ではなく、「家族支援の充実と推進」として、その中に位置付けたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族支援の充実と推進」とし、その中に支援と支援の場設置推進に分けて記載。 ・孤立する家族を相談窓口につなげる仕組み作りを記載。
6 関係機関との連携体制の構築の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・項目6は3と一緒にし、その中に「継続的に寄り添える支援体制の構築」、「連携推進に向けた取り組み」を分けて入れたらどうか。 ・「市町村プラットフォーム」がどういものがわかりにくいので注釈を入れたほうが良い。 ・「市町村プラットフォーム」では地域で活用できる「資源の整理」(上記のとおり居場所については具体的に活用できる内容とその設置主体を整理する、その他連携期間の活用できる事業)をし、支援していく中で不足する「資源の整備」(例えば、〇〇を内容とした地域参加の場所があるとよい、中間的就労の場の不足、協力事業主の開拓が必要・等)について発信してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3と一体化。 ・市町村プラットフォームの注釈を記載
7 支援人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者の絶対的な数の不足。支援者をどれだけ掘り起こすのか。広報や情報発信 ・ひきこもり支援人材の長野県独自のカリキュラムの開発 ・多職種に対するひきこもり支援の基礎的な研修の実施 ・実践者を支える人が必要。スーパーバイザー的な人材の育成 ・ひきこもり支援センターを県内にもっと増設できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり支援センターの取組として「多職種に対する基礎的な研修」の実施等を記載。